事例No.	2657
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	福岡県大木町

事例区分	行政改革

タグ	・新たな政策手法の確立・活用 ・組織改革 ・歳入確保

事例種類	新たな政策手法の確立

事例内容・タイトル

福岡県大木町

出典

平成２９年度ふるさとづくり大賞事例集

福岡県大木町

概　　要

大量消費・大量廃棄で地球環境が悪化する中、無駄のない暮らしの中に、豊かさを実感できる地域づくりを目指し、おおき循環センター「くるるん」（生ごみとし尿・浄化槽汚泥によるメタン発酵施設等）を中心に、住民と一体となって、これまで費用をかけて処分していた「ごみ」を「資源」として地域で循環させる取組みを行っている。この次世代につけを残さない「循環のまちづくり」の取組みにより、ごみの減量・処理費用の削減をはじめ、地球温暖化対策、エネルギーの地産地消、消化液の有機液肥としての活用による農業振興、新たな雇用創出、住民の意識の向上など、多くの自治体が抱える行政課題の解決につながっている。



評価された点

・ごみの資源化・減量化の徹底した取組みを10年以上継続し、実質効果を生み出している。かつ、自然エネルギーの有効活用により、活動の幅が広がり、他地域にも良い影響を及ぼしている。
・迷惑施設とされがちな廃棄物処理施設を循環のまちのシンボルとし、「循環型社会」をブランド化しようという独自の戦略は注目に値する。地域社会が一体となった先進的な取組みが世界からも注目されることで、住民が自信と誇りを持ち、それがさらに地域づくりへのエネルギーにつながるという好循環が生まれており、今後も新たな展開が期待される。
・循環のまちづくりの取組みを通じて、ごみの減量・処理費用の削減だけではなく、バイオマスセンターや地産地消レストラン、農産物直売所における雇用創出など多くの効果をもたらしており、それが住民のシビックプライド向上に繋がっている点が評価できる。
・ごみの資源化・減量化及びバイオガス発電、太陽光発電、風力発電等の自然エネルギーを活用するエネルギーの地産地消を基本とし、環境、農業、食が上手く連携した地域づくりに向けて、行政と市民が一体となって取り組むエコシティとして注目される。
・ごみ減量を官民連携で実現しており評価に値する。
・エコによる地域づくりは各地で行われているが、大木町の活動はあらゆる場面で住民が参加しており町ぐるみであるという点が素晴らしいと思う。環境にやさしい活動というレベルにとどまることなく、「農業」「レストラン」から個々の住民の『ゴミ削減』による表彰制度など多方面にわたって関連、ひもづけられた活動は長期的に持続する地域づくり・課題解決のスケールの大きい取組みの参考例として紹介できる。
・ゴミの減量にまちをあげて取り組んでおり全国５位のリサイクル率は、すばらしい取組みだと思う。

